

広島大学附属福山中・高等学校(広島県) 標語作成者:小林 咲緒さん

国際社会で活躍できる人材育成をめざし取り組みを推進

★生徒の自主性を尊重し中国総合通信局長賞を受賞

当校は、生徒の自主性に重きを置き、生徒自身の判断で行動するという教育方針を掲げ活動しております。その中で、今回の標語応募は二年生の総合的な探究の時間「創造」と「提言」から前者を選び、且つ音楽、美術、書道、国語と4つあるカテゴリーから自分が学びたい科目として「国語」を選んだ生徒の取り組みの一環として実施いたしました。元々国語が好きで言葉に興味のある生徒による取り組みであったことから、生徒自らが過去入賞作品を分析し、言葉の使い方や伝え方を標語作成に生かすなど、積極的に取り組み良い作品を生み出してくれたと思います。

★段階的な教育を通じて、安心安全なネット利用を推進

当校は、全国に先駆け中高一貫教育に取り組んだ学校であり、情報モラル教育においては中学一年生の段階から実施し、高校では各学年で内容を企画できるロングホームルームを活用し大学の先生を招いて講演いただくなど、生徒が安心安全にインターネットを利用できるよう取り組んでおります。また、標語に限らず生徒が様々なコンテンツに自由に応募できる環境を整え提供するなど、年代に応じた学習環境となるよう取り組みを進めております。

★自主性を育む教育にコンテストを活用

今回賞をいただき作成した生徒はとても喜んでいました。学校としても大変光栄ですし、今回の取り組みにより生徒の表現力が磨かれ、さらに情報モラルに対する当事者意識が生まれるなど大きな成果があったと感じています。その反面「引用の範囲を超えていないか」「法に則り対応できているか」などの点において徹底が難しい面があることも感じています。今後も、標語含め様々なコンテンツを活用し生徒の自主性を育むとともに、日本のみならず国際社会で活躍できる人材の育成に向け取り組みを進めていきたいと思っています。



中国総合通信局長賞

「まあいいや」 一度の公開 一生の後悔

高知市立横浜中学校(高知県) 標語作成者:川添 太陽さん

学校・生徒・PTA 三位一体の取り組みで初受賞へ

★親子で考えるスマホ・SNSとの向き合い方

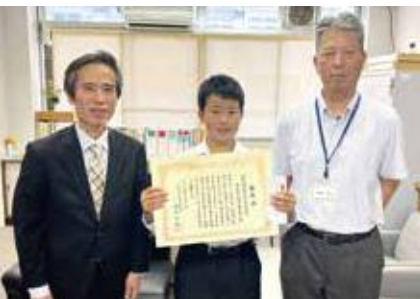
本校では、一年間のPTA活動の一つとして親子行事を企画・運営しており、活動の中で保護者から「子どものスマホ利用やSNSの問題をよく理解していない」という意見が寄せられたことから、一年生の時に講演会を検討したことが始まりになります。講演会は「e-ネットキャラバン」を活用し、その中で標語の話があったことから、授業の一環として取り組み応募をさせていただいたことがきっかけとなります。

★標語づくりから見た情報モラルへの深い理解

今回が初めての取り組みのため、もう少し戸惑いや苦労があるかもしれないと思っていましたが、実際にはとても意欲的に取り組み、私たち教師の想像より短い時間でたくさんの標語を作っていました。情報モラルは授業で聞いて理解しているものの「自分事として捉え切れていない」「自分はその様なことには引っかけられない」と楽観的に考えている生徒が多いのではないかと感じていました。しかし、取り組みを通じ普段から子どもたちがSNSの問題を理解し、きちんと考えていることが見えたのはとても大きな収穫でした。

★子どもたちの思いが形となり、四国最上位賞を受賞!

今回「四国総合通信局長賞」をいただくことができました。この取り組みは一年生のPTA活動から始まり受賞に至ったため、生徒だけではなくPTAの方々もとても喜んでくださいました。この結果は、皆が一体となり取り組んだ成果でありとても誇らしく思います。授賞式の模様が地元テレビ局で放映されたこともあり「すごいね!」との声もたくさんいただきました。何より、子どもたちが思っていることを標語という形にして応募したものが四国最上位賞に選ばれたことが嬉しかったです。



四国総合通信局長賞

失うよ その投稿で 親友を

鹿児島県立鹿児島中央高等学校(鹿児島県) 標語作成者:植松 そらさん

SSH指定校として追求する、高度な情報モラル教育

★生徒の持つ知識を正しい方向に導くために標語を活用

本校は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校として発表の機会も多いため、情報モラル教育に力を入れています。生徒の持つ情報モラルの知識は高いレベルにありますが、その知識を適切な方向に導くには、段階的な取り組みを通じ繰り返し生徒に考えるきっかけを与えることが必要となります。そのために、情報Iの授業では「気づきを与えるきっかけ」として標語など様々なコンクールを活用しています。今回の標語の取り組みでは、情報モラルの本質を追求した作品が生まれ、また、普段の学校活動では推し量れない力を持っている生徒を発掘する良い機会になったと感じています。



★学校の役割を再認識! 教員、生徒両面での教育を推進

他の情報モラル教育の取り組みとして、毎年、生徒に対し年度当初に外部講師を招いてのスマホの安全利用教室を開催しています。今年度は新たな取り組みとして、教員に対する、SSH活動を行う上で不可欠な著作権に関する講座を開催し、学んだ内容を授業で生徒に還元することにも取り組みました。昨年、高校生による電子マネーを用いた詐欺のニュースが報道され、学校が果たすべき役割の重要性を再認識しました。本校としても、情報モラルに関する活動の手を緩めることなく取り組みを今後も進めていきたいと思っています。

★SSH指定校としての責任を再認識! 更なる高みをめざして

今回、九州総合通信局長賞を受賞、表彰いただき、とても光栄である反面、重責を再認識しました。先に触れたように、本校はSSH指定校として情報モラル教育にも高い水準を求め活動しています。また「著作権」「引用ルール」「外部発表時の発言の仕方」などにも力を入れて指導しています。これら本校の取り組みを通じて生徒がより高い意識を持ち情報モラルに向きあってくれることを期待しています。

九州総合通信局長賞

その投稿 生涯消えない 「ストーリー」

那覇市立寄宮中学校(沖縄県) 標語作成者:新城 麻里奈さん

自分ゴトとして考える土台づくりに標語を活用

★情報モラル教育の一部として標語づくりを

本校では情報モラル教育を重要視しており、主に技術の授業でネットモラルを扱っています。一年生時は特別活動としてネット依存をテーマにした講習を行うなど定期的に情報モラルを学ぶ機会を設けていますし、毎年沖縄県警の担当者によるサイバー犯罪講義を行っています。標語づくりは二年生時に行っており、授業の中でワークシート形式で取り組んでいます。

★楽しみながら、言語理解を促進

標語を作成する際、最初に過去入賞標語を使った“穴埋めクイズ”を行います。「空欄に入ることばを考える」といったプロセスを踏むことで「思ったよりできる」「身近な言葉だ」と感じることができ、言葉や標語への理解が進んでいると思います。私は、本校着任前から情報モラル教育への標語活用を進めており過去には受賞経験もあります。それらの経験を生徒に伝えるときにも「頑張って賞を取ろう!」と話をしたところ、生徒みんなが意欲的に取り組んでくれたのでとても心強く嬉しかったです。



★生徒自身が考え、成長するために

本校では、「標語募集があるから作りなさい」ではなく、ネットでの事件や事故が増えているから標語を活用した啓発活動が行われているといった背景や、全国の小中学生が実際にネット犯罪に巻き込まれている数値などを伝え、「何故このような標語が必要なのか」を考えてもらうようにしております。生徒自身が考えることで「自分に関係がないことでは無い」という思いや“自分ゴト”として捉える姿勢が育まれ成長していると感じています。

沖縄総合通信事務所長賞

炎上中 叩くあなたも 着火前